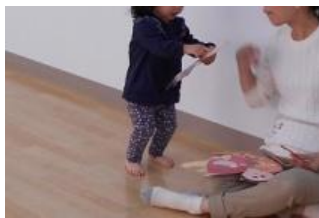


第9回 あかちゃん広場 ご報告

11月15日（火）に、第9回「あかちゃん広場」を開催しました。前日の冷たい雨から一転、麗らかなポカポカ陽気の穏やかな朝に、室内遊びは退屈かな、と心配しましたが、、、今日もやっぱり、子どもも大人もニコニコ笑顔の、とびっきり楽しい1時間半でした。



「あなたのおなまえは」を歌いながらの自己紹介。輪の外で様子を窺っていた子の斜め後ろで歌っていると、歌に合わせて身体を揺らす姿、自分の番が近づいたことに気づき自ら輪に入る姿が見られました。



壁面飾りから想像の世界が広がります。



紙芝居に夢中になる子どもたち。

軽くて明るい音も
魅力の積み木です。



楽しそうな姿をみたら、一緒のことをやってみたくになります。

日本には「魔の2歳児」「第一次反抗期」「イヤイヤ期」という言葉がありますが、「反抗」も「イヤイヤ」も、自我が芽生え、自分と相手の存在や気持ちを感じとっている証拠。また、自分の感情を素直に表出できるということは、その相手に受け止めてもらえるという安心感が育っている証拠です。

1-2歳の子どもに「やってはいけない・やらなくてはいけない」というルールを言葉で伝えるのはとても難しいので、保育者は環境（の発信するメッセージ）を通して「やりたくなるように・やりたくなくなるように」工夫しています。例えば、静かにしてほしいときに大きな声で「口を閉じて！」なんて叫ぶのは矛盾です。そうではなくて、小さい声で「あのね、大事なお話、聞こえる？」と囁くと、神秘的な面持ちで口をきゅっと閉じて「なにになに？」とでも言うように身を乗り出してくることがあります。

わたしたちは、子どもへの「こうしてほしい、こうなってほしい」という願いを、うまく環境（わたしたち自身も環境の一部です）にのせて心に届けたいなと思いながら、試行錯誤を楽しんでいます。